

新年のごあいさつ



秋田県土地改良事業団体連合会
(水土里ネット秋田)

会長 高貝 久遠

明けましておめでとうございます。

会員並びに関係の皆様には、ご家族共々、健やかに初春を迎えられましたことと、心からお慶び申し上げます。また平素より、農業農村整備事業の推進並びに本会の業務運営に特段のご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

この冬は、12月下旬まで里には雪がほとんど見当たりませんでした。暮れも押し詰まってから荒れた日が続きましたが、新年に入りましても積雪は例年と比べ大変少ないようです。多くの皆様にあっては、雪かき、雪下ろしで苦勞されることがほとんど無く、過ごしやすい日々を送っておられる事と存じます。

振り返ってみますと、昨年も、中央、県南では暖冬で雪が少なかった一方、大館、鹿角などでは平成18年豪雪を超える積雪に苦慮されておりました。また、全県的に空梅雨となり、水不足を心配

された方も多かったのではないかと存じます。更に、9月から10月初旬にかけては、暴風雨が全県各所で発生し、溢水や暴風による被害を受けた方もいらっしゃるかと存じます。県内全般の作柄は平年並み以上を確保できたものの、天候に翻弄された一年だったように感じます。

さて、2015年農林業センサスの概数値が、昨年11月27日に公表されました。農業経営体数や農業就業人口の減少といった農業経営の厳しさを示す指標が並ぶ一方で、組織経営体、特に法人経営数の増加や、一農業経営体当たりの経営耕地面積の拡大など、経営の大規模化を示す指標も出てきております。秋田県では、2010年と比べ、法人経営数は394経営体から603経営体に増加しております。また、一農業経営体当たりの経営耕地面積は2.68haから3.22haに拡大しており、この面積は北海道に続き国内第二位の規模であります。規模の拡大は、コスト低減による経営の安定につながりますが、ほ場整備事業を通じた法人化の促進や、ほ場の大区画化による成果が結実したものであろうかと存じます。

本会は、こうしたほ場整備事業を始めとする農業農村整備事業を、会員各位や関係者の皆様と共に推進し、農業の持続的発展に向けた取り組みを進めておりますが、皆様ご承知のとおり、予算不足の影響は甚だしく、その復活が大いに期待されるところです。TPPが昨年大筋合意に達し、農業の成長産業化に向けた取り組みは待った無しであります。また、国土強靱化や地方創生の観点からも、事業の推進は必要不可欠です。

関係の皆様からの懸命のお力添えもあり、予算編成の基本方針となる「骨太の方針」に「土地改良事業の一層の推進」との文言が盛り込まれるなど、予算確保の気運が高まっておりましたが、昨年12月に相次いで閣議決定された平成27年度補正予算案と平成28年度当初予算案では、農業農村整備事業関係予算としてそれぞれ990億円と3820億円が計上され、これらを合算しますと、平成27年度当初予算と比較し、1222億円が増額されることとなります。正に皆様のご努力の賜であります。

もっとも、今後このとおり予算案が国会で議決されても、平成21年度当初予算の水準にはまだ達しておりません。今後も、国民各層のご理解をいただきながら、農業農村整備事業の推進に向け努力していくことが必要であると強く感じております。

さて、本年は申年であります。農業農村を取り巻く厳しい環境が一つでも多く去ることを願い、また初春の日の出のような明るい日本農業のこれからをご祈念申し上げたいと存じます。各水土里ネットや各市町村などの会員を始め関係各位におかれましては、本会の運営に対する更なるご支援と、「闘う土地改良」へのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様のご健勝とご多幸をお祈りしまして、新年のご挨拶と致します。

年頭のごあいさつ



秋田県知事

佐竹 敬久

明けましておめでとうございます。

水土里ネット会員の皆様におかれましては、健やかな新春をお迎えることと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、「2015 F I S フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会」が2月に開催されたほか、5月には「東北六魂祭」が本県で初めて開かれるなど、国民文化祭が開催された一昨年に続き、県外から大勢の方々がお越しになりました。

政治・経済に目を向けますと、平和安全法制関連2法の成立や、TPP協定（環太平洋経済連携協定）の大筋合意があったほか、政府においては、「新・三本の矢」を打ち出し、少子高齢化に真正面から向き合う姿勢を示した年でありました。

こうした中、本県では、県政の最重要課題である人口減少の克服と秋田の創生を目指した「あきた未来総合戦略」を策定したところであり、今年、その実現に向けて大胆かつ実効性のある取組を重点的に推進してまいります。

農林水産分野では、農林水産業を成長産業とするため、園芸作物の生産拡大を一層加速させるほか、枝豆など戦略作物のブランド確立に向け、生産と販売の両面にわたる取組を強化してまいります。特にTPP協定の発効による農産物価格の下落などの影響が懸念されていることから、国による影響緩和対策等とともに、競争力強化に向けた県独自による攻めの対策を講じてまいります。

とりわけ、農業農村整備事業は、生産コストの縮減や複合型生産構造への転換など、本県農業の持続的発展を確保するために極めて重要な施策であることから、県としましては、現場のニーズに的確に対応して事業を推進してまいりたいと考えており、国に対し、必要な予算措置を強く要望しているところでありますので、水土里ネット会員の皆様におかれましても力強いご支援をお願いいたします。

また、本年は県政の運営指針である「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」に掲げる取組を着実に推進し、私の任期4年間の総仕上げの年として、県民の皆様が潤いと真の豊かさを実感できる「高質な田舎」秋田の実現を目指し、全力で取り組んでまいります。

結びに、新しい年が水土里ネット会員の皆様にとって希望に満ちあふれた飛躍の年となりますようご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

目次 CONTENTS

新年挨拶		平成27年度秋田県土地改良事業推進大会	8
・本会会長【高貝久遠】	2	平成27年度土地改良関係団体役職員講習会	10
・秋田県知事【佐竹敬久】	3	「秋田県協和土地改良区」（新設）誕生	10
・全国水土里ネット会長会議顧問【進藤かねひこ】	4	農業農村整備フェアアンケート結果	11
平成27年秋の叙勲受章	4	秋田の原風景を守り継ぐフォーラム	11
予算確保の要請活動（東北・北海道連協）	5	役職員新年あいさつ	12
農業農村整備の集い	6	連合会誌	12
平成28年度農林水産関係予算概算決定の概要	7	編集後記	12

“闘う土地改良”の先頭に立って



全国水土里ネット会長会議

顧問 進藤 かねひこ

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、昨春、新しく全国土地改良事業団体連合会会長に就任された二階俊博先生が提唱された「闘う土地改良」に込められた真義に感銘し、また触発され、政治活動の途を志す決意を固め、昭和61年に入省以来、29年間勤めてきた農林水産省を昨年の6月、中山間地域振興課長を最後に辞職しました。

その後、7月29日に都道府県土地改良事業団体連合会会長会議（全国水土里ネット会長会議）顧問を仰せつかり、全国各地を回り、その実情を聞かせて頂きました。移動した距離は約30万km、日本の農業水路の総延長約40万km（地球10周分）の4分の3に達しました。全国を巡回する中で、我が国の国土には人間の体でいうと動脈と静脈にあたる農業用水路・排水路が隅々まで張り巡らされ、肉体にあたる450万haの農地と一体になって国民の食料を支えており、多面的機能の適切な発揮を通じて、まさに日本

の国土を支えていることを改めて実感した次第です。

そして、様々な課題も聞かせて頂きました。農業・農村の現場で聞く声は本当に切実で、心に響きました。過去・現在・将来とも国民の食料を支える農地と水、それを可能としている土地改良は「日本の命綱」であります。その命綱が切れそうになっていることに強い危機感を禁じ得ません。

全国各地を回り始めてから約4か月経た時点で、私なりに全国の声を集約し、全国水土里ネット会長会議に報告しました。そして、その報告した内容を私に課せられた5つの使命として承り、その使命を果たすため全身全霊で取り組んでまいります。

1. 土地改良の予算確保に全力
2. 日本型直接支払制度の充実に全力
3. 災害に強い農山漁村づくりに全力
4. 自然豊かな美しい農山漁村の継承に全力
5. 農業と農山漁村への国民の理解に全力

この「5つの全力」を通じて、「安全で安心な食」、「大切な農地と水」、「美しい農山漁村」、この3つを守り抜くことを約束します。

生まれ故郷である秋田県の取り組みも十分勉強させて頂きながら、農業・農村の現場と行政・国政の場とのキャッチボールを主導し、自らがそのボールとなって粘り強く両方の「場」を往復できるように、果敢な中にも謙虚に自己を研鑽し、更に幅広く深く政治活動を前に進める覚悟です。

最後に、今年は、土地改良にとって剣ヶ峰と言ってよい程の大きな節目の年となります。私は、幅広い国民の皆さんのご理解と土地改良に関わる私たちの結束を源泉として、「闘う土地改良」の先頭に立って全力疾走することを改めてお誓いします。

本年が皆様お一人おひとりにとって良き年となることを祈念し、私の年頭のご挨拶と致します。

プロフィール

大仙市（旧協和町船岡）出身で、4人兄弟の末っ子。地元の小・中学校を卒業され、高校は秋田市へ。生徒会や野球にうちこみ、その後、岩手大学農学部へ進学。

昭和61年に農林水産省へ入省。本省のほか、九州・北陸・関東農政局管内、在チリ日本国大使館、熊本県庁で勤務。本省では予算総括の経験が長く、離職直前は中山間地域振興課長を勤めていた。

平成27年秋の叙勲 受章者

平成27年秋の叙勲において土地改良関係者では以下の方々を受章され、佐竹知事からは、「皆さまがそれぞれの分野においてご尽力され、広く社会に貢献されたことに対し、心から敬意を表します」とお祝いのことばが贈られました。受章者の皆さま、誠におめでとうございます。

土地改良事業功労



❖旭日双光章
藤井 弘道

- ・秋田県南旭川水系土地改良区理事長
- ・秋田県土地改良事業団体連合会総括監事

地方自治功労



❖旭日双光章
米 澤 一

- ・元北秋田市議会議員
- ・北秋田市綴子土地改良区理事長